

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和6年度村学力調査から、全国平均を下回る結果であった。特に「漢字の読み」領域では、全国平均から26.2%下回った。また、「話すこと・聞くこと」は全国平均から-10.9%下回っていた。そのため、漢字を読み書きする力や聞いたことを理解し、自分の言葉で話す力を高めていく必要がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">既習学習の内容を復習する時間を、スキルタイムに確保し、前学年の内容も振り返り学習を進める。グラフなどの資料を読み取る力を身に付けるために、資料からどんな情報を得られるか全体で確認、共有し、自分の考えをまとめるようにする。自分の意見をもたせるために、朝の会でニュースから思った自分の意見を発表する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">漢字に対する苦手意識をなくすための一斉指導からの脱却を図り、個別対応する。漢字が読めて書けることで、国語学習に対して意欲的に学べるようにする。また、音読を正しくできるように読み物教材のときに読むときのポイントを伝える。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none">説明文及び物語文でクローズではなくオープンな問いを増やす。「How」や「Why」を考えることで背景を考え、自分の言葉で整理することで、語彙力・思考力・表現力身に付くようにしていく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①漢字ドリルの進め方を一斉一律で指導するのではなく、自分の進度で進められるようにした。小テストも複数枚印刷し、自分のペースで取り組めるようにした。</p> <p>②全校朝会等の要約したり、朝の会でスピーチの時間を設けたり、継続的な日記指導を行うようにした。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①新学期が始まって2か月以内に漢字ドリルを全員終了できるように調整する。終わった児童から漢字小テストに取り組み、11月中に抜き打ちで行い成果を確認する。</p> <p>②スピーチは、テーマをいくつか提示し、全体で話す機会を月に1度は設ける。日記指導では、週に一度以上宿題として出し、ニュースに対する意見文などを書かせることで、自分の意見を表現できるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>漢字ドリルの進め方や宿題の取り組みが効果として現れた。学年末のまとめテストでは9割の児童が6年生の漢字を9割以上とれていた。また、日記や文章を書く際に漢字を使うこともできた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>スピーチのテーマに悩む児童がいた。候補をいくつか用意し選択できるようにする必要がある。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">個別に支援が必要な児童には、意欲が減退しないよう、部首だけはあらかじめ書いておくなどの対策が必要である。人前で話す経験があればあるほど、国語の授業のスピーチや卒業式での一言の際に堂々と話せることにつながっていく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">自分の考えや思いを話したり書いたりして伝えることのできる児童	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度村学力調査から、領域全般で全国平均を-9.8%と大きく下回っていた。特に活用能力に課題が見られ、「思考・判断・表現」、「活用」は、-14%程度大きく下回っている。中でも「日本の国土と人々の暮らし」の問題内容において課題が見られるので、復習時間を設けるなどして解決していく必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習計画の見直しをもたせ、学び方を理解させるために、効果的に ICT 機器を利活用した資料作成を行い、導入時で提示する。 歴史領域において、年号と事象を覚えさせるのではなく、歴史的背景を理解させる学習内容とする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の提示の仕方を工夫し、興味・関心をもって読み取れるようにする。また、わかりやすいスライドを用意し、時代の流れがとらえやすいように工夫する。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時の立場で考えられる発問をすることで、当事者として歴史的事象をとらえる機会を増やす。同時に、現代から第三者として客観的にとらえる機会を設けることで、一つの出来事を多面的に見て判断する力をつけていく。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①ICT 機器による資料提示で興味を引き、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②「もしあなたが〇〇の立場なら」という発問で、当時の状況や人物になり切って思考できるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①主に6月から1月頃まで続く歴史学習において、出てくる地域が現在でいうとどこかという視点を常にもち、日本の国土に関する知識を織り交ぜながら学習を進めることで、単元テストの知識が8割以上とれるようにする。</p> <p>②歴史上の主要人物が学習内容に出てくる際には、当時にどのような葛藤をしていたかを問い、議論することで、単元テストの記述欄で8割以上の児童が得点できるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>当時の人物になって考えることや資料から読み取る時間を多くとったことで、単元テストの知識の部分で常に平均9割を超えた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>時代の流れや背景を伝えるには教師が話すことも重要である。児童の活動時間との兼ね合いが難しかった。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時の人物になりきり、2択で考えていくスタイルは児童にとって考えやすいといえる。 教科書の内容にプラスし、詳しい内容を伝えることでつながりを意識できるため、教材研究に時間をかける必要がある。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 疑問をもとに、自ら調べ課題を解決していくことができる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、「小数の計算」と「面積」領域が全国平均を上回っていた。一方、他領域では全国平均を下回っており、特に「整数の仲間分け」「分数の計算」「比例・単位量あたりの大きさ」において課題が見られた。 算数全般において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。 特に「変化と関係」領域について、基礎的な問題が正確に解ける力を付ける必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。授業のねらいにつながる既習内容を確認することで、児童の不安感を軽減し、主体的に自力解決できるようにする。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、ICT等を使って問題を可視化する。例えば、「分数の計算」や「比」における文章問題では、数直線や線分図を使ってわかっていることや聞かれていることを整理する。また、図形の学習では具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①既習事項との繋がりを意識させることで、児童の不安感を軽減し、学習内容へのスムーズな導入を測る。児童の自作問題でおさらいをするなど、児童が主体的に取り組めるよう工夫する。</p> <p>②ペアやグループによる学習で、半具体物や図、言葉を使って説明しあうことで、児童全員が「わかる」「できる」を体験できるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ワークテストの知識・技能・思考の3観点において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。</p> <p>②2学期末までに、自分の考えや、授業を通して分かったことなどをノートに書きあらわせるようにし、検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>問題の解法を、既習事項を基に考えたことをノートにまとめたり、友達と伝えあったり、高めあったりすることができた。</p> <p>身の回りにある立体を見つけたり、グラフから読み取ったことを基に考察したことを、ノートにまとめ、発表したりすることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>計算ミスや単位間違い、作図など、技能面には課題がある。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に自分の考えをもち、学習に臨む姿勢はこれからも継続してもらいたい。 計算力など、基礎的な学力は反復練習を行い、高められるようにする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>問題に対して主体的に取り組む、自分なりの考えをもち続けていること。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、全国平均と比べて「知識・技能」は-13.3%、「思考・判断・表現」は-11.6%、「主体的に取り組む態度」は-13.0%と、どの領域も大きく下回っている。また、「人のたんじょう」「ふりこのきまり」「けんび鏡の使い方」の学習内容の定着率が極めて低い。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想と理由を分けて考えさせる。 結果をもとに分かることをノートに記入し、単元の終わりには結論までまとめる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物を準備して、興味や関心を高めたり、実感を伴った理解を促したりできるようにする。 ICT機器を使った学習補充を行って理解を深めさせる。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を通して、特に予想や考察場面で生活経験や既習事項を根拠に考えられるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。 ②単元末には学習内容を整理・復習できるようにまとめの学習カード書く時間を確保する。 ③具体物を調べたり、ICT機器を使って図や写真、動画などを見て調べたり、理解を深めたりできるように授業の中で活用する。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> ①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を通年検証し、学習に進んで臨む児童7割以上を目指す。 ②単元末に学習カードの達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。 ③ノートやプレテストの進捗や達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>グループによる予想、実験、話し合いの様子が意欲的、活発になった。問題を主体的に捉えて解決に向けて学習できるようになった。</p> <p><課題></p> <p>理解が浅く、頭の中で事象を整理して、正しく文章化したり、認識したりできていない児童がいた。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見を参考にして、イメージ図などを使って考えを深められるような場を意図的にもたせること。 ・ ICTを活用して実験の事象や結果を振り返ることができるように授業を工夫すること。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を見出し、主体的に問題解決するための予想や考察がしっかり表現できる児童 	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・正確な音程で歌唱する技能に課題があり、適宜支援を要する児童が見られる。変声期が始まる時期であり、技能的・心理的配慮を要する。 ・感じ取った曲想と音楽の構造を適切な言葉で表現し、またそれらにふさわしい歌唱及び器楽の表現を工夫していくことを苦手とする児童が見られる。特に言語能力について支援が必要である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵譜などを用いて曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。 ・一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 ・ICT 機器及び教材を用いて、自らの学習状況に合わせた学習の仕方を選択できるようにする。 ・文例や単語例などを示し、適切な言葉で曲想や音楽の構造を表現できるようにするため支援を行う。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現を録音して聴く活動を積極的に取り入れ、自らの音とその響きに対する意識を高める。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①知覚したことと感受したことをワークシートに記述し、表現に生かせるようにする。単語例・文例での支援も行う。表現が思いや意図に沿ったものになっているか、録音で確かめる。</p> <p>②範唱と模唱を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。和声の響きを感じ取る活動を増やし、音高に対する意識を高める。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。9割の児童が曲想を捉え、ふさわしい表現に対する自分なりの思いや意図をもてるようにする。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。9割の児童が適切なリズムと音程で歌えることを目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①知覚したことと感受したことをワークシートに記述し、表現に生かせるようにする。単語例・文例での支援も行う。表現が思いや意図に沿ったものになっているか、録音で確かめる。</p> <p>②範唱と模唱を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。和声の響きを感じ取る活動を増やし、音高に対する意識を高める。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。9割の児童が曲想を捉え、ふさわしい表現に対する自分なりの思いや意図をもてるようにする。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。9割の児童が適切なリズムと音程で歌えることを目指す。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①知覚したことと感受したことをワークシートに記述し、表現に生かせるようにする。単語例・文例での支援も行う。表現が思いや意図に沿ったものになっているか、録音で確かめる。</p> <p>②範唱と模唱を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。和声の響きを感じ取る活動を増やし、音高に対する意識を高める。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。9割の児童が曲想を捉え、ふさわしい表現に対する自分なりの思いや意図をもてるようにする。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。9割の児童が適切なリズムと音程で歌えることを目指す。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚したことと感受したことを結び付けて、自分の言葉でよさや面白さを伝える力が身に付いた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音高を意識して歌うことが難しい児童がいる。響きを意識して歌う意識づけが必要である。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語例や文例の支援は効果的であるため、継続する。 ・頭声発声の定着が必要であるため、発声の感覚がつかめるように指導を工夫する。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動や友達との関わりを通して、表現への思いや意図を深めたり広げたりすることのできる児童。 			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 6 年度第 6 学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・ 6 年生では、今までの学年で学んだ技術を総合的に生かした単元が多い。特に木工や版画などの分野ではより高度な技能や構想の力が必要になってくる。今まで学んできたことを応用しつつ表したいことに合わせて工夫できるようにする。
- ・ 表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。
- ・ 自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和 4 年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。
- ・ 工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方を紹介する。
- ・ 材料や道具などの使い方や工夫できるところや組み合わせることができることなどを確認する。
- ・ アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示や ICT 機器を活用して確認する。
- ・ 児童と実際にその材料や道具で工夫できるところを確認し、実際に試すことのできる学習場面を設定する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。
- ② ワークシートを活用しての活動の手順を計画したり、アイデアを広げたりする。

＜検証方法＞

- ① 児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。新しい材料に触れ合う活動を通してどう使うか発想を働かせたり、2 学期では電動のこぎりやのこぎりといった前年までに学んだ道具を使用する題材を行う。技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。
- ② 児童や作品、ワークシートの観察。全児童がある程度の見通しを持ちながら、自分なりに計画やアイデアを実現できるようにする。計画や発想が思い付かない児童には適宜支援を行っていく。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

- ・ 基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・ ワークシートなどを活用することにより、アイデアを広げることができた。

＜課題＞

- ・ 道具や材料などを自分の表したものに合わせてさらに工夫する力を伸ばしたい。

5. 令和 7 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・ さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。
- ・ ワークシートがあることにより制限されてしまう時もあるので、題材などによってアプローチの方法を工夫する。

6. 令和 7 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

計画性や手順などを具多的に考えたり、アイデアを広げたり、工夫したりできる児童。

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習は、自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。 ・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。 ・学習した調理を生活の中でも活用できる技能を定着させる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画を活用してまずはわかる工夫をする。 ・ICT活用して、繰り返し復習できるようにする。 ・練習時間を十分にとり、技能の定着を図る。 ・進みの早い児童には別の課題や応用の課題を出し、さらに技能の定着を図る。 ・家庭でも実践できる課題を出し、生活の中で工夫して実践できるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブックで自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用できるようにする。</p> <p>③進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。児童がミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。ミシンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題の確認をする。学習したことを家庭で実践できているか、自分なりの工夫ができているかを確認する。長期休みに課題を出す。全員が家庭で学習を行うことを目標とする。</p> <p>③題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組み。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する記述をしているか、題材の終わりに確認をする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブックで自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用できるようにする。</p> <p>③進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。児童がミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。ミシンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題の確認をする。学習したことを家庭で実践できているか、自分なりの工夫ができているかを確認する。長期休みに課題を出す。全員が家庭で学習を行うことを目標とする。</p> <p>③題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組み。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する記述をしているか、題材の終わりに確認をする。</p>
<p><方策></p> <p>①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブックで自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用できるようにする。</p> <p>③進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①作品の観察と技能テストを行う。児童がミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。ミシンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。</p> <p>②家庭で実践してくる宿題や長期休業中の課題の確認をする。学習したことを家庭で実践できているか、自分なりの工夫ができているかを確認する。長期休みに課題を出す。全員が家庭で学習を行うことを目標とする。</p> <p>③題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組み。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する記述をしているか、題材の終わりに確認をする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力を得ることで、学習したことが自分の生活に結びつけられた。 ・家庭での実践に意欲的に取り組んでいた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進みの早い生徒への対応は、題材ごとにばらつきがあった。より深められるような課題を用意したい。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックをより活用し、学びにつながるようにしていく。 ・家庭での実践課題により意欲的に取り組めるよう、お便りで家庭にも伝えていく。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>意欲的に学習に取り組み、学んだことを家庭でも実践しようとする児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知る、する、見る、支える、4つの観点で運動を楽しめるように、各領域において児童が「目的意識」をもって「必要感」を感じて学習していく必要がある。特に、チームでの協力が必要なボール運動領域において、ボールを持っていないときの動き方について、わかって、できる工夫をしていく必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を出して準備運動や整理運動をする。 ・学習の見通しをもち、振り返り時間を確保する。 ・ICT機器を使用して、自分と他者の身体の動きを比較できるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りを大切にし、次々の学習の始まりに使用する。 ・ICT機器を活用し、自分やチームの動きを見える化することで、客観的に自分やチームの動きをとらえられるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①ホワイトボードやICT機器を使って、空間認知できるようにする。</p> <p>②準備運動及び感覚づくりの運動を充実させ、できることを増やしていく。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>① チームの課題を見付けたり解決したりするために、使用したいタイミングで使えるように環境を整備する。ネット型、ベースボール型、ゴール型と学習を計画し、年間を通して客観視するメリットを感じられるように、振り返りの時間等に適切な見方を指導していく。</p> <p>② ボール運動の準備運動では、その単元で高めたい基礎的な技能を時間内に取り入れる。また、単元中、帯でその運動を取り入れる。さらに、音楽を使用してリズム感をつけて、心と体をほぐせるようにする。全児童がゲームを成り立たせるうえで最低限必要な技能が身に付くようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①ホワイトボードやICT機器を使って、空間認知できるようにする。</p> <p>②準備運動及び感覚づくりの運動を充実させ、できることを増やしていく。</p>	<p><検証方法></p> <p>① チームの課題を見付けたり解決したりするために、使用したいタイミングで使えるように環境を整備する。ネット型、ベースボール型、ゴール型と学習を計画し、年間を通して客観視するメリットを感じられるように、振り返りの時間等に適切な見方を指導していく。</p> <p>② ボール運動の準備運動では、その単元で高めたい基礎的な技能を時間内に取り入れる。また、単元中、帯でその運動を取り入れる。さらに、音楽を使用してリズム感をつけて、心と体をほぐせるようにする。全児童がゲームを成り立たせるうえで最低限必要な技能が身に付くようにする。</p>
<p><方策></p> <p>①ホワイトボードやICT機器を使って、空間認知できるようにする。</p> <p>②準備運動及び感覚づくりの運動を充実させ、できることを増やしていく。</p>	<p><検証方法></p> <p>① チームの課題を見付けたり解決したりするために、使用したいタイミングで使えるように環境を整備する。ネット型、ベースボール型、ゴール型と学習を計画し、年間を通して客観視するメリットを感じられるように、振り返りの時間等に適切な見方を指導していく。</p> <p>② ボール運動の準備運動では、その単元で高めたい基礎的な技能を時間内に取り入れる。また、単元中、帯でその運動を取り入れる。さらに、音楽を使用してリズム感をつけて、心と体をほぐせるようにする。全児童がゲームを成り立たせるうえで最低限必要な技能が身に付くようにする。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u></p> <p><成果></p> <p>ゲームの合間やゲーム後など、多様な時間においてプレーを振り返る児童が多かった。ボードやICTの活用により視覚的に捉えることができた。</p> <p><課題></p> <p>チーム及び個人のふりかえりを「毎回書くのか」「時間内にどう終わらせるか」が課題である。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題やめあてを明確にして学習するために児童の思いをふりかえりや対話から見取りながら学習を一緒に作っていくことが必要である。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u></p> <p>自分やチームの課題をもち解決に向けて仲間と協力しながら解決していける児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が10%程いる。 ・聞き取りや読み取りが苦手な児童が10%程いる。 ・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が10%程いる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーを交えて、会話と連動させる。 ・スキルタイムを利用して、アルファベットの小文字・大文字の書字など基礎的学習内容の反復や、課題のある内容を復習する時間を確保する。 ・ICT機器を使った学習補充を行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材の活用（カフトなど）により復習を繰り返し、既習学習を確実に定着させる。 ・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①ICTの活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を83点から88点に引き上げる。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①ICTの活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を83点から88点に引き上げる。</p>
<p><方策></p> <p>①ICTの活用(カフトなど)を導入・復習で多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。</p> <p>②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。</p> <p>②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を83点から88点に引き上げる。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材(カフト等)を活用したことで、ゲーム感覚で学習できる環境が整い、意欲的に取り組む児童が増えた。 ・掲示物を工夫することで、日常的に英語に触れる機会が増え、単元の重要表現の定着が促進された。 ・英会話に対する抵抗感が減り、簡単なフレーズを積極的に話す児童が増加した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲が低い児童の割合は減少したが、一部の児童は依然として英語学習に苦手意識を持っている。 ・聞き取りや読み取りが苦手な児童への支援が継続的に必要であり、個別対応の工夫が求められる。 ・単元ごとの重要表現を掲示するだけでなく、児童が主体的に活用できるような活動をさらに工夫する必要がある。 ・スキルタイムでの基礎学習の時間をより効果的に活用し、個別最適な学習機会を提供する必要がある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に苦手意識を持つ児童への支援を強化し、成功体験を積ませることで学習意欲を向上させる。 ・聞き取りや読み取りの苦手な児童に対し、視覚的・聴覚的支援を取り入れた教材を活用し、理解を深める。 ・掲示物の活用をさらに発展させ、児童自身が単語やフレーズを活用しながら学習できる環境を整える。 ・スキルタイムの活用を工夫し、児童の習熟度に応じた個別指導を充実させる。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語学習に対して前向きに取り組み、積極的に英語を話そうとする姿勢が身についている。 ・聞き取りや読み取りの力が向上し、簡単な英語のやり取りが自信をもってできるようになっている。 ・ローマ字の読み書きに対する苦手意識が軽減され、スムーズに活用できるようになっている。 ・授業内外で英語に触れる機会を活かし、自ら学ぼうとする態度を育てている。 			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・教材に入り込み、自分事として捉えて心情を多面的に読み取る。・最後は、自分の立場で考え、日常生活に生かせるようにする。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りの際に、学習で学んだ内容をイラストに表すなどさせる。・実生活に置き換えた課題を話し合わせる時間を設ける。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・導入と展開後段の発問をそろえ、変容が分かるようにする。・板書を工夫し、思考の流れが分かるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①「価値項目の意味」「物語の内容にまつわること」などを導入で扱うことで、価値項目や物語に対する児童の前提条件を全体でそろえることを心がける。</p> <p>②動作化や役割演技を必要に応じて取り入れることで、登場人物の気持ちを多面的にとらえられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間を通して導入に力を入れ、開始5分の導入で児童が教材を読みたい気持ちを高められているか、教室の雰囲気で見とる。</p> <p>②動作化や役割演技を取り入れる前と後で、児童から多様な意見が出てきたかどうかで見とる。年間の中で主に、A・Bの価値項目で活用していく。</p>
<p>4. 検証結果（成果と課題）（年度末に記入する）</p> <p><成果></p> <p>価値項目や教材に関する発問で始めたことで、児童の学習意欲を高めることができた。また、役割演技により登場人物の気持ちを多面的に捉えられた。</p> <p><課題></p> <p>導入に時間をかけすぎて、一番時間を使いところで時間がなくなることがあった。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <p>教材内の感情解釈から自分事として考えることに代わるときに、スムーズなつながりを意識して、授業として一本筋が通るように工夫していく必要がある。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p>自分の意見を意欲的に発信し、他者の意見を受け止めて多様な価値観で物事を多角的に見ることが出来る児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 総合的な学習の時間〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・小笠原諸島の世界遺産としての価値について考える上で、学年を系統立てた学習であったと理解している児童が50%ほどと高くない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・外部講師の講義から課題を見付け、インターネットや本などで調べ学習を展開していく。・学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・外部講師の講義から、自分が調べたい学習課題を発見し、必要感をもって調べられるようにする。・発表形式を自分で決めて、発表できるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①新聞、スライド等、自分の学びをまとめる際に、相手や目的に応じて発表手段を選べるようにする。 また、誰とどのように行うかも児童が選択できるようにする。</p> <p>②ゲストティーチャーを招き話を聞くことで、さらに学習意欲が増すようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①一番初めの学習計画を立てる段階で、まとめ方をどのようにしたらよいか全体で交流するときの発言で検証する。</p> <p>②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>見通しをもつことを大切にすることで、方向性を明確にしたうえで調べ学習に取り組むことができた。</p> <p>ゲストティーチャーの協力により、児童が意欲的に学ぶことができた。</p> <p><課題></p> <p>タコノ葉の学習における調べ学習では、ネットや本に情報がのっていないので、行い方を工夫していく必要がある。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none">・調べ学習としてまとめていくのは、アホウドリと世界遺産とし、タコノ葉は体験学習とするとよい。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>自分が調べたいテーマを決め、探求し、分かりやすくまとめていくことのできる児童</p>	